

八月一九日

早朝北京プロジェクトの、はじまりの概要を整理する。ようやく、自分でも腑におち始めた。「北京より」と題して、HPで公開してゆく、カバーコラムよりも面白く、現在進行形のドキュメンタリーとして研究室の主要作品としていきたい。編集は丹羽太一と若いスタッフに任せる。

昨日のミーティングでスタッフ達が何となく全体像が把握できないと走り難そうだの雰囲気があったので、その場ではまだ全体像は呈示し難いと言ったのだが、一晩考えて、やっぱり彼等がそう感じるのも無理はないなと、考え直した。まだ、ほんの始まりだが、少しは理解されるだろうと期待している。

研究室に送附して、反応を待つ。HPは中国でも読まれているので、どんな風な影響があるか、少しばかり緊張している。

八月二十一日 日曜日

昨日と今日で秋からのプロジェクトをFIXする作業を一人ですすめた。全てとは言えぬが明日のホームPで公開してゆくつもり。それは公開して、色々な形での集中力を作っつけていかぬと出来ぬ事の群でもある。明日からHPは大きく舵を切る事になる。編集の丹羽太一に期待する。

午後、世田谷村の一階土間部分に置いてある古材を五本程三階テラスに運び上げる。ブドウ棚を作り始める準備だ。今日は世田谷村には私の他は誰も居ない。風だけが吹き抜けている。たった

五本の古材を運び上げただけの事だが、狭い階段を持ち上げるのはいささかどころが大変な作業であった。

昼食、夕食、共に一人とする。

二十三時半、長男雄大帰宅。この二日間ほとんど一人で作業し続ける事ができたのは幸いだ。一人で考えた事を、ITでいきなり社会に投げ入れる事ができるのは有り難い事ではある。

八月二十二日

午後研究室。北京、二十一世紀農村研究両プロジェクトのミーティング。それに関連しHPの組み直しを相談。丹羽君のセンスを生かせるか。その他打合わせ、修了後十九時前、新大久保駅前近江屋で久し振りに インターネット社長若松氏と会う。彼は今日ロシアから帰ったばかり。ロシアでの仕事の展開状態など聞く。ロシアも中国同様につねるよう動いている。日本は静かに取り残されてゆくばかりかな。若松氏は私よりも十五才以上若いから、日本が冷え切るだろう二〇一五年位を成熟した年令として生きていかねばならない。その準備の為のロシアなのだろうが、上手くゆく事を祈るばかり。